

## 保健体育科研究部会

**I 研究テーマ** 全体テーマ「生きる力を育てる体育学習をめざして」

### II 研究テーマ設定の理由

体育学習において「生きる力を育てること」に積極的に関わっていきたいと考えている。生きる力を育てるということは、何よりも「学校や授業が楽しい・おもしろい」という経験を数多く積み重ねながら、子どもたちが生き生きと活動に取り組むことができるようにし、その中で自ら考え行動する力を培っていくことにある。

体育学習において「生きる力を育てる」ためには、単に体力づくりや運動技能の習得を目指すだけでなく、運動を愛好し、運動への自主的な取り組みのできる力を身につけさせることが大切である。そのためには、児童の能力・興味関心・欲求などを把握し、一人ひとりが楽しいと感じるような授業を実践していくことが重要になってくる。そうすることによって、運動文化が育成されていくものと考えられる。

体育における楽しさとは、「精一杯体を動かす楽しさ」「仲間と協力する楽しさ、汗を流す喜び」のほかに、「自分のめあてをもち、その達成にむけて創意・工夫・努力していく楽しさ」も重要な要素の一つである。そこで児童の心身の発達の状況や運動に対する興味や関心の状況を考慮したうえで、

- ①「運動の特性を大切にしたい授業づくり」のあり方をさぐる
- ②「子どもどうしのかかわりを大切にしたい授業づくり」のあり方をさぐる
- ③「運動の系統性」と「子どもを大切にしたい運動の成果」をさぐる。

以上の3点を大きな柱とし、自ら考えたり、自ら行動したりする力を培っていくことができるようにさせたいと考える。

以上のようなことから本テーマを設定し、生きる力を育てる授業づくりをすすめていくことにした。

### III 研究の経過と内容

- |       |            |                                    |
|-------|------------|------------------------------------|
| 4月10日 | 部会総会       | (役員選出・研究日程・研究テーマの決定)               |
| 5月15日 | 第49次春季全体集会 | 部会研究会(全体) 基調提案・運営方針決定              |
| 6月17日 | 部会研究会      | (ブロック毎)                            |
| 8月7日  | 部会研究会      | (ブロック毎) 第49次夏季全体集会                 |
| 8月20日 | 体育実技講習会    | (全体) <午前> 部会研究会(ブロック毎) <午後>        |
| 9月4日  | 部会研究会 C    | (水泳)ブロック研究授業                       |
| 10月2日 | 部会研究会 A    | (器械運動)(2014年度県教研代表授業)              |
| 11月4日 | 部会研究会 B    | (ボール運動)ブロック研究授業                    |
| 1月27日 | 部会総会       | 各ブロックの成果の発表と反省・来年度の方向性<br>県教研の還流報告 |

#### IV 各ブロックの研究内容

##### 1 Aブロック（体づくり運動・器械運動部会）

###### （1）研究テーマ 「自ら取り組む楽しい体育学習」

～「跳び箱運動を楽しもう」（器械運動）～

###### （2）研究の内容

今年度は、3ブロックに分かれて研究を進めてから4年目に当たる。Aブロックは、前回来までの3年間で「体づくり運動」の実践を積み重ねてきた。それぞれ「習得」「活用」に重点をおいて指導内容や指導方法について研究と実践を行った。今年度は、新たな3年間をむかえることで、「器械運動」に焦点を当て研究を進めていくこととした。小学校部会テーマ「生きる力を育てる体育学習をめざして」をふまえ、ブロックテーマを「自ら取り組む楽しい体育学習」とし、初年度である今回は5年生の跳び箱運動を取り上げた。

子どもたち一人ひとりが自分の能力に応じた課題をもち、課題解決に向けた練習に取り組み、さらには友達同士で教え合ったり励まし合ったりしながら学習を進めることにより、一人ひとりが技能の向上と運動する楽しさや喜びを味わうことで、子どもたちの学習意欲が高まり「自ら取り組む楽しい体育学習」の実現へとつながっていくと考えた。そこで、以下のことを中心に研究を進めた。

###### ①運動の特性に触れながら自己の課題を解決し、技能の向上を図る指導の工夫

- ・それぞれの場で身につける動きを示し、自分の課題に応じた場を選ぶことができる。
- ・課題が易しくなるような場や補助具を活用して安全に安心して取り組むことができる。
- ・仲間で励まし合い、助け合って学習を進めることができる。

以上に重点をおきながら場の設定を考えた。

###### ②子ども同士の教え合いを大切にした授業展開の工夫

- ・跳び箱運動における技のポイントを知るため、学習カードや掲示資料の充実を図る。
- ・教え合いの活動が生かされるようにグループ別学習を進める。

###### （3）研究の成果と課題

○授業の初めに技のポイントや各自の課題を確認することで、課題の意識化が図られ子どもたちの主体的な活動に結びついた。グループ別学習では、一人ひとりが自分の課題を解決する場を選びながら練習することやお互いアドバイスしたり補助したりと教え合い活動を進めることができた。技のポイント、見るポイントが共有できていたことが成果につながった。

○それぞれの場で身につけさせたい動きが明確で、課題を解決できる場が用意されていた。授業者が子どもの実態や願いを把握し、めざす子どもの姿を明確にすることで、一人ひとりの技能を高める場を設定することができる。各自の課題に対して、それを解決する有効な手立てを授業者が持っていることが大切である。

○自分の課題がグループ内で共有していることが課題解決には必要である。友だちの課題が

わかっていて適切なアドバイスができていたのか。グループの中で課題を共有し合いながら、教え合いの内容を深めていくことが今後の課題である。

## 2 Bブロック（ボール運動・表現運動部会）

### （1）研究テーマ

「自ら学ぶ楽しい体育授業」

～「ゴーゴー！シューター」（4年 ボール運動）をとおして～

### （2）研究の内容

Bブロックは、「ボール運動・表現運動部会」ということで、過去3年間は両方の研究を行ってきた。昨年度は「表現運動」の授業実践を行ったが、今年度から、また新たに「ボール運動」にしぼって研究を進めていくことにした。

研究にあたっては、次の通り、昨年度までの研究の成果で得られた「指導者が児童に身に付けさせたい技能を明確にもち、動きのポイントを指導していくこと」や、「子どもが夢中になって運動するドリルゲームを設定していくこと」を取り入れて研究を進めてきた、また、今年度からはさらに、「児童のかかわり合いやつながりをも重視した授業づくり」に向けて取り組んできた。

○技能向上のために…

児童に身に付けさせたい技能を指導者が明確にもち、動きのポイントを指導する。

子どもが夢中になって運動をする場を設定する。

○児童が主体的に考え、運動に取り組むために…

児童の技能を考慮しながら、児童の工夫が活かされるような場やルールを工夫する。

○児童同士のかかわり合いやつながりを大切にしたい授業づくり

### （3）研究の成果と課題

○技能向上のために、教師が指導のポイントをしっかりと持った指導を行っていたので、

「投げる・捕る」といった技能の他、空いたスペースに走り込むといった、パスを出した後の動きがよくできていた。

○主体的な学習についても、児童自らが、自分たちのめあてに向かって学習ができていた。

○児童同士のかかわり合いについては、ゲーム中の声のかけ合い、作戦タイム時の児童相互のアドバイスなどよくできていた。学級の雰囲気づくりがよかったのではないかな。

●シュートチャンスがあっても、パスをすることを考えてしまう傾向が見られたので、シュートにつながるめあてを持たせ意識させたり、様々な角度からのシュート練習をするような指導をしていくとさらにいいのではないかな。

●各チームがねらうところに向かえるような教師の言葉かけやアドバイスが入るとさらに主体的な学習につながっていくのではないかな。

●ルールの設定に関して、キャプテン以外の女子が2点、赤帽子をかぶった女子が3点としていたが適当であっただろうか。全員シュート決めたらボーナス点、というやり方もあるのではないかな。いずれにしても、得点設定の難しさを感じた。

### 3 Cブロック（陸上運動・水泳部会）

#### （1）研究テーマ 『生きる力を育てる体育学習をめざして』

～「Let's ロングスイミング」（水泳 クロール・平泳ぎ）～

#### （2）研究の内容

Cブロックでは、前年度まで3年次に渡り、陸上運動の中の「跳」の運動に焦点を絞り研究を進めてきた。予定されていた陸上運動の3年間の研究が成果を上げて終了したため、本年度より研究していない領域である「水泳」について3年間の継続研究を行うこととした。初年度となった本年度は、高学年の水泳領域の中の「クロール・平泳ぎ」の指導を取り上げ、運動の特性にふれさせながら、課題解決を促すバディでの学習、場づくりの工夫、教材・教具の工夫や指導者の関わり方等に視点をあて、検証を行ってきた。

#### （3）研究の成果と課題

- ねらい①・ねらい②の課題を達成するために、児童は各場で意欲的に運動に取り組み、教師のアドバイスや指導をよく聞き、よい雰囲気の中、活動する様子が見られた。
- 「スッ・タカ・ドーン」のタイミングがよく、手・足のバランスを身につけるのに効果的な指導ができた。呼吸とのバランスやタイミングをより身につけるような指導を継続したい。
- バディ同士でほめ合ったり、補助をし合ったりする様子が見られた。しかし、本時の課題をお互いに共有し合ったり、教え合ったりすることについては、課題も見られる。また、バディの組ませ方の工夫や各場における児童同士の教え合いがより効果的なものとなるとよい。
- ヘルパーやビート板等を効果的に活用することで、児童が水泳学習に楽しく取り組む様子が見られる。また、教師やバディ同士で「腰を支える」「足を支える」補助が有効であった。
- ゴーグルを外して水慣れをさせることも必要。導入部分でそんな活動も取り入れられるとよい。水泳学習で何を教えるか。自分の命を守るためにも必要なことをとらえさせたい。また、ドリル的な技術指導も導入部分に設定するなど工夫したい。